

会 議 録

会 議 の 名 称	第4回行田らしいまち並みづくりとにぎわい創出基本計画検討委員会
開 催 日 時	平成26年1月21日（火） 開会：午後1時30分 閉会：午後3時
開 催 場 所	行田市産業文化会館 2階2A会議室
出席者(委員) 氏 名	田尻要 桑田仁 佐野友昭 宮本伸子 朽木宏 沖本孝之 並木政夫 富岡誠 (名簿順・敬称略)
欠席者(委員) 氏 名	横田康介 (敬称略)
事務局・担当課	【企画政策課】岩田政策推進幹 田島主任 【文化財保護課】中島課長 【商工観光課】吉田課長 【都市計画課】栗原課長 加藤主幹 金子主査 金古主任
会 議 内 容	議 事 (1) 計画全体の構成及び内容について
会 議 資 料	(資料名・概要等) ・ 次第 ・ 行田らしいまち並みづくりとにぎわい創出基本計画（素案） ・ 説明資料
そ の 他 必 要 事 項	傍聴人4名

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
桑田委員 事務局（金子） 宮本委員 事務局（金子）	1 開 会 2 あいさつ ・ 田尻委員長あいさつ 3 議 事 （１）計画全体の構成及び内容について ■ 資料を用いて事務局より説明 審議 ・ p 3 5 の「行田らしいまちづくりの基本理念のイメージ図」は、今は「にぎわいが無く、閑散とした様子」だが、そこから動いていく、というイメージなのか。私のイメージでは、行田らしさは既にあるが、上手く活かしていないことが課題なのではないかと思っていたが、これでは何もないところから芽が出るというイメージである一方、p 3 6 の【“行田らしさ” とは】には、様々な資源についての記載があり、違和感がある。本質的ではないかもしれないが、何もないと言い切ってしまうのは、少し違うのではないかと思う。 ・ p 3 5 のイメージ図は、にぎわいをつくっていくイメージとして考えており、にぎわいをどのように創出し、波及させていくのか、というコラム的な要素で作成させていただいた。桑田委員のご指摘のとおり、「行田らしさ」として、地域資源を活用してまちづくりを進めていくことがスタート地点になっており、後段の整合性等に関わってくることから、再度見せ方について精査させていただきたい。 ・ p 8 8 「各段階における市民等と行政の関わり方」と p 9 0 の Step 1 ～ Step 5 までの実現化の流れの関係性がわかりにくい。p 8 8 をなくして p 9 0 のみとした方が市民にとって分かり易いのではないかと思う。 ・ ご指摘のとおり、p 8 8 と p 9 0 は共に Step 1 ～ Step 5 と段階を追った記載であるが、整合性が図られておらず、確かに少し分かりにくい印象である。最終的には市民に対し、こうした地域資源を活かしたまちづくりをしていきたい、という統一的な考え方を公表さ

並木委員	せて頂くことから、この点は再度精査させていただきたい。 ・ p 8 8 の 2 段落目に市民等として、「地域住民、事業者、NPO などの市民活動団体」と記載してあるが、p 9 5 では「地域住民、市民団体、事業者」とあり、これが市民等であると思うが、p 9 9 には「住民、団体、事業者」と記載がある。まちづくりを行う上で、商工会議所や青年会議所等は非常に重要な団体だと思うが、読んでどこに含まれるのかわからず、また、市民等とは具体的に誰のことを指すのかわからない。その点を具体的にした方が当人の自覚にも繋がると思う。
事務局（金古） 桑田委員	・内容を精査し、修正させていただく。 ・ p 7 5 以降の「軸の具体的施策」における取組みイメージにとって、大事なものは行政による空間整備とそれに隣接する民地も含めて、一体感を持たせることが大事ではないかと思う。写真は未挿入だが、その点に配慮したイメージの提案があれば良いと思う。
事務局（金子）	・前はイメージとして写真を挿入させていただいたが、所有者に対し写真の掲載使用の承諾を得ていないことから、今回はこのような形で対応させていただいた。現在の写真からどのようにまち並みが形成されていくのか、段階的なイメージとして追って整理をしていきたい考えから、段階①として市民・事業者がまちづくりに取り組んだイメージを整理させていただき、それに加えて行政で舗装を美装化するなど事業を行い、一体感を持たせたのが段階②となる。また、段階②においては、パブリック空間とプライベート空間を整理していきたいと考えており、文言についても再度、整理をさせていただく。
桑田委員	・段階②が市民・事業者と行政による一体感のあるまちづくりのイメージとして捉えて構わないか。
事務局（金子） 並木委員	・そのように捉えていただきたい。 ・ p 6 6 方針 2 の「歴史と文化の香りが漂う歩きたくなるまち並みづくり」において、2－1 から 2－8 まで方針別の具体的施策があるが、p 7 3 に市民プール駐車場に紫色の丸で観光発着拠点と示しており、その後も頻出していることから、具体的に拠点として整備す

事務局（吉田）	るのであれば、施策として位置付けてはどうかと思う。 ・ p 7 3 の紫のエリアは、観光発着拠点として現在既にバスターミナルが整備されており、発着拠点ということで方針図には示している。
事務局（金子）	・先ほど施策に位置付けた方が良いのではないかとこの提案をいただいたが、現在 p 7 0 の「4－1 都市機能の集約に向けた拠点の整備」に記載しているが、ご指摘いただいた点をもう少し肉厚にして整理しながら、位置付けを検討していきたいと考えている。
桑田委員	・本計画を何年かごとの見直しや進行状況の管理を行うなど、計画そのもののチェックについて考える必要があるのではないかと。
事務局（金古）	・前回の検討委員会資料から PDCA について記載していたページが今回は抜けてしまっているが、スケジュールを進めていく段階で見直し等は逐一行っていく考えである。
宮本委員	・全体の整合性も含めて時代の変化や、状況の変化に応じて、例えば平成 2 9 年度など本計画の中期に差し掛かる時点に一度、見直しを行うなどの記述があると、達成の目途がより立ちやすいという気もする。
事務局（金子）	・第 5 次行田市総合振興計画は、1 0 年の計画の中に、前期計画、後期計画として、5 年ごとに見直しを行うこととしている。本計画も 1 0 年という計画期間の中で、整備をさせて頂くということで前回、PDCA サイクルのページを添付し、適宜評価を行うことを示していた。ご指摘の通り、適宜評価をしながら次のステップに繋げていくなどスパイラルアップする様を、PDCA サイクルのページに位置付け、整理させていただきたい。
宮本委員	・ p 6 6 に足袋と暮らしの博物館の写真が載っているが、これは建物の裏側の写真であるため、表側の写真にした方が良くと思う。また、p 2 1 の「生活・産業資源の特性」の「商店」欄に、「行田市駅前通り周辺の空き店舗」の写真が使われているが、空き店舗も資源と捉えることはもちろん出来ると思うが、ここでは空き店舗や空き地が目立っているということと、足袋蔵や歴史的建築物を活用した商店が増加している、という 2 点の記載があり、どちらかというと後

事務局（金古）	者に関連した写真を載せた方が計画書としては良いと思う。行田市民はもちろん、市外の方も目に触れる計画書になるので、もう少し良いイメージの写真を載せたら良いのではないかな。
沖本委員	・ p 6 6 の写真については、建物表側の写真を掲載させて頂く。また、他にも差替えた方が良いという箇所があれば、ご意見頂戴したい。なお、p 2 1 の商店における記載内容については、後段を重視して記載させていただく。 ・ p 6 7 ページの童・銅人形の写真にはゴミ袋が写り込んでいるため、出来ればゴミ袋が写っていない方が宜しいかと思う。更に p 7 0 の深谷ベースの写真だが、コンテナ自体があまり見えないことから、全体が見える写真に変更した方が良いと思う。
事務局（金古） 田尻委員長	・ それぞれ、ふさわしい写真を掲載させていただく。 ・ 写真については最終的には修正されると思うが、委員の中で私の方が良い写真を持っている、というようなことがあれば、是非、提供いただくなど協力をお願いしたい。
佐野委員	・ p 9 6 のまちづくり協議会についてだが、体制のイメージは、主として市民組織があり、そこからまちづくり協議会へと発展させ、自治体と協議する形になっているが、協議会に参加する資格として市民組織団体や NPO などに属しないと参加出来ないように見受けられるので、個人として協議会に参加する人に配慮した記載にして頂ければと思う。また、Step 2 の協議会と STEP5 のエリアマネジメント組織の違いが読み取れなかったので、説明願いたい。
事務局（金子）	・ 現在行田市には、まちづくり協議会は存在しておらず、スタート時には行政も加わり、地域の皆様と一緒にまちづくりをしていこうという気運の醸成を図っていくのが Step 1 で、そうした中、活動団体や地域の方々と構成する団体がそれぞれ連携して、まちづくりを進めていこうとするのが Step 2 である。まちづくりを行っていく中で主体的に取り組んでいく組織として p 9 6 のまちづくり協議会型へと発展できれば良いと考えている。なお、エリアとしてそれぞれ動きが取れるよう、連携・協働による地域まちづくりについて整理させて頂いているのが Step 5 であり、小さいものからどん

佐野委員	ん大きくしていき、エリアとしてのマネージメント組織が形成されればということで、Step 1 から Step 5 という形で段階を経た整備をさせて頂いた。
事務局（金子）	・ Step 5 のエリアマネージメント組織というのは新たに形成する組織なのか。
佐野委員	・ Step 2 で最終的なまちづくり協議会が設置された場合、Step 5 の組織と意見や方針が異なる場合というのは想定しているのか。
宮本委員	・ このまちづくり協議会が組織され、活動していくうちにエリアマネージメント組織としての認識がその中で成熟していくという様に考えていくものであると思う。従って、突然姿かたちが変貌するようなものではないような気がする。また、誰でも参加できるような表現にするべきである。
朽木委員	・ 佐野委員の意見に関連しているが、本日の会議でも見て取れるが、まちづくりをいざ行うとなると、参加者はどうしてもこういう時間帯に参加・活動できる方に限られ、実際の市民はというと現在はサラリーマンが統計的にも多く、そういった方々が参加し易い協議会として示すことが良いかと思う。先ほどの地域住民の定義の中に、以前、中心市街地活性化の会議時に中心市街地はなぜ活性化が必要なのかという話があり、実際は中心市街地よりもその周辺地域の方の人口の方がはるかに多く、周辺の方たちは何の為に参加するのか、というと疑問符があった。地域住民というと正に、そこに関連する場所に住んでいる、またそれに関連する方達みたいな認識があるが、実際には市民全員なのではないか、という気がする。言葉の定義として、その点が明確になっていると市民の関心にも関わってくる気がする。
事務局（中島）	・ ある面では、中心市街地に関わってくる方全員ということを示していると思う。必ずしもこの地区に住んでいる方やその地区の商業者ということではもちろん無いと捉えている。仮に商店という観点で

田尻委員長	見ても、そこに来るお客さんの意見を聞かないまちづくりはありえず、そういう意味では広くそこに関わる方の意見をまちづくりに反映していくことが望ましい形であり、決してそこに住んでいる方や、商売を行っている方たちだけのものではないと思う。 ・ オール行田というニュアンスが伝わらなくてはいけないのだろうが、そこが難しいところでもある。当然、中心市街地とそれに関わる方だけでなく、郊外の方々ともなんらかの形で関わっていくなど、互いに連携してできることが数多くあると思う。中心市街地は市の顔という意味合いもあり、計画書を読まれた方がどう受け取るかが重要となるため、慎重に言葉を選んでいく必要がある。
桑田委員	・ p 5 7 のゾーニング図で「商業ゾーン」のキャプションが右上にあるが、実際のゾーンの箇所と離れており、分かりにくいので修正願いたい。
富岡委員	・ 先ほど市民という言葉が出たが、定期的に市民アンケート調査を実施し、市民全体がどう思っているのか、把握に努めていただきたい。また、チェック面も含め、市民の意見を吸い上げる場として、ワークショップなども定期的に行うと良いと思う。
並木委員	・ p 1 0 1 以降にコラムと書いてあるが、どのような位置付けと意味合いなのか教えていただきたい。
事務局（金子）	・ 具体的施策については重複するものもあるが、方針 1 から 4 に体系付けさせていただいた。それぞれをステップごとに追っていくことは困難であるので、代表的な事例を何点かコラムという形で整理をさせていただいた。位置付け等についてもこれから計画書の素案という形でパブリックコメントを行い、再度体系的な位置付けや流れを整理していこうと考えている。
並木委員	・ 要するに、Step 1 から Step 5 に施策を当てはめると、コラムに記載があるような形になるのか。
事務局（金子）	・ 今回は代表的な事例をコラムという形で整理する見せ方を採用したが、方針と上手くリンクが出来れば、このような取り組みを行う際は、こういった順序で行うもの、と示すことができると思うので、位置関係等も踏まえて整理をさせていただく。

並木委員	・ p 1 0 2 の「建築物と街路が一体となった」という記述だが、耳慣れない表現であり、市民の方には少しわかりにくいのではないかな。
沖本委員	・ 街路があり、建物があり、その取り合いという意味では、建物と街路は一体感のあるものであると思う。建築を生業にしている方から見ると、街路と建築物の一体性は常にイメージする必要がある、彼らの立場からすると別段違和感はないが、並木委員が仰るように確かにわかりにくいのかもしれないため、多少、説明する必要があるのかもしれない。
田尻委員長	・ そのようなチェックは、今回に限らず必要である。市民が目にする報告書であるから、表現については十分精査する必要がある。
宮本委員	・ コラムとして取り上げた 3 つの事例は、市民がまちづくりに取り組みたいと思った時に、Step 1 ～ Step 5 まで具体的にこのように実施する例示として捉えて良いのか。だとすると、「コラム」ではなく、「事例」と記述した方が良いのではないかな。
事務局（岩田）	・ そのように修正させていただく。なお、内容については以前開催させていただいたワークショップでの意見等を踏まえ、事例として紹介させていただいている。
宮本委員	・ ワークショップの参加者にはわかるのかもしれないが、多くの方は参加していないであろうことから、もう少し分かりやすく表現していただきたい。また、p 1 0 9 にはイメージ・写真が挿入予定となっているが、このイメージや写真というのは前回の検討委員会でイメージ図として挿入されていた写真を想定しているのか。
事務局（金古）	・ 前回検討委員会で提示したイメージ写真のようにまちづくりを行うことによって、将来的な全体イメージがどのようなようになっていくのかを p 1 0 9 に最終的に示していきたいと考えている。
事務局（金子）	・ p 7 4 ページ以降の取組みイメージについては、現在は全て写真が挿入されていないが、この段階②が先ほど桑田委員からの発言にもあったとおり、全体に道路部分と民有地との一体感のある場所を載せ、最終的にエリアとしての写真を示し、このようなまちの様相に変わるというイメージ図を付けていきたいと考えている。なお、写真は所有者の了承を得た後、掲載をさせていただく形になる。

桑田委員	・ p 1 0 3 の Step 5 の「一括発注」という記載だが、ここでの一括発注という文言は、どのような意味で捉えれば良いのか。
事務局（金子）	・ ここでの一括発注というのは、個々ではなく、エリアマネジメント組織として行うこととして具体的に表現させていただいた。ご指摘のとおり、一括発注という言葉が分かりにくいと思われるので、もう少し分かり易い表現に修正させていただく。
沖本委員	・ p 4 8 の図は、前回指摘させていただき、拡大はされているが、それでもやはり凡例が読めないなので、読める様にさせていただきたい。
朽木委員	・ PDCA の評価という話があったが、まちづくりは効率的に推進できるものではないことから、進んだか、進んでないか、上手くいったか、上手くいっていないか、などで評価されてしまうと、その影響で方針がブレてしまうことが心配である。方針としてはこうだが、進捗が遅れている。ただし、将来に向かって進んでいる、ということがわかるよう、明確な評価方法を盛り込み、そういった中で5年ごとに再評価を行うなどしていかないといけない。
事務局（金子）	・ 今後は事業評価を進めて参りたい。事業の効果発現要因を整理し、足りなければフォローアップしていく評価体系を作っていきたいと考えている。朽木委員が仰るとおり、評価してスパイラルアップしていくというのは、非常に重要な要素であるので、その点を踏まえ、計画書を整理させていただきたい。
田尻委員長	採決 ・ 他に意見がなければ、ただいまの意見を踏まえて内容を吟味し、一部修正を加え、計画書に反映していく。 審議終了 4 そ の 他 ・ 事務局より次回開催日程について事務連絡 第5回検討委員会 平成26年2月25日（火）午後1時30分から 産業文化会館2階 2A会議室 5 閉 会